

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-220007

(P2000-220007A)

(43) 公開日 平成12年8月8日 (2000.8.8)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームト* (参考)
A 4 1 C 3/12		A 4 1 C 3/12	A 4 L 0 3 1
3/00		3/00	B
D 0 6 M 10/00		D 0 6 M 10/00	Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

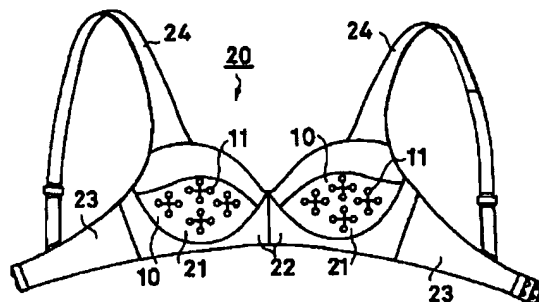
(21) 出願番号	特願平11-20510	(71) 出願人	000003001 帝人株式会社 大阪府大阪市中央区南本町1丁目6番7号
(22) 出願日	平成11年1月28日 (1999.1.28)	(72) 発明者	添田 剛 大阪府大阪市中央区南本町1丁目6番7号 帝人株式会社内
		(74) 代理人	100085224 弁理士 白井 重隆 Fターム (参考) 4L031 AA12 AB01 AB32 AB33 CA08 CA12 DA00

(54) 【発明の名称】 ブラジャーカップ用織編物およびこの織編物を用いたブラジャーカップ

(57) 【要約】

【課題】 柄が付いているにもかかわらず、白や薄色の衣服を着用したり、あるいは、薄い生地を用いた衣服を着用しても、ブラジャーのカップ部に施した柄が透けて見えないブラジャーカップの生地には適な織編物およびこの織編物を用いたブラジャーカップを提供すること。

【解決手段】 エンボス加工による柄11が付与されている熱可塑性合成繊維製の織編物10を用いてブラジャーのカップ部21を形成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 熱可塑性合成繊維からなる織編物にエンボス加工による柄が付与されているブラジャーカップ用織編物。

【請求項2】 エンボス加工による凹凸差が40 μ m以上ある請求項1記載のブラジャーカップ用織編物。

【請求項3】 エンボス加工による柄が付与されている熱可塑性合成繊維製の織編物を用いてなるブラジャーカップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、エンボス加工による柄が付与されている織編物およびこの織編物を用いたブラジャーカップに関する。

【0002】

【従来の技術】ブラジャーのカップ部にラッシュレースを使用したり、刺繍を施すと、白や薄色のTシャツを着用した際、あるいは、薄い生地を用いたブラウスを着用した際に、ブラジャーのカップ部に施した柄が透けて見えるという問題がある。また、柄を構成している糸がほつれる、価格が高い、部分的に強度が低い、というような問題もある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記従来の問題に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、柄が付いているにもかかわらず、白や薄色の衣服を着用したり、あるいは、薄い生地を用いた衣服を着用しても、ブラジャーのカップ部に施した柄が透けて見えず、なおかつ、柄糸がほつれない、レースに比べて強度が高く、安価な製品ができるなど、ブラジャーカップの生地上好適な織編物およびこの織編物を用いたブラジャーカップを提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、熱可塑性合成繊維からなる織編物にエンボス加工による柄が付与されているブラジャーカップ用織編物である。このように、熱可塑性合成繊維からなる織編物にエンボス加工による柄を付与することにより、この織編物を用いてブラジャーカップを形成した場合に、ブラジャーのカップ部に柄が付いているにもかかわらず、白や薄色のTシャツを着用したり、あるいは、薄い生地を用いたブラウスを着用しても、ブラジャーのカップ部に施した柄が透けて見えない。ここで、エンボス加工による凹凸差は、40 μ m以上あることが好ましい。この凹凸差が、40 μ m未満の場合は、柄の認識が難しい場合がある。

【0005】また、本発明は、エンボス加工による柄が付与されている熱可塑性合成繊維製の織編物を用いてなるブラジャーカップである。このように、エンボス加工による柄が付与されている熱可塑性合成繊維製の織編物を用いてブラジャーカップを形成することにより、ブラ

ジャーのカップ部に柄が付いているにもかかわらず、白や薄色のTシャツを着用したり、あるいは、薄い生地を用いたブラウスを着用しても、ブラジャーのカップ部に施した柄が透けて見えない。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。図1の織編物10には、エンボス加工による柄11が付与されており、ブラジャーカップの生地として供される。この柄11は、図示しない金属製の型ローラーとペーパーロールとの間に織編物を通過させることによって形成される。その際、型ローラーの温度は、180℃以上が好ましく、さらに好ましくは180～220℃である。また、押圧力は、5トン/線圧程度が好ましく、さらに好ましくは5～10トン/線圧程度である。

【0007】また、織編物の組織物としては、例えば、トリコットハーフやダブルトリコットハーフなどの経編、平編（天竺）、サテンなど、任意のものが使用できる。また、織編物に適用する熱可塑性合成繊維としては、ナイロン繊維、ポリエステル繊維、ポリエチレン繊維、ポリプロピレン繊維などが好ましいが、なかでもポリエステル繊維が好ましい。

【0008】上記の織編物10を用いてブラジャーのカップ部を形成する場合、モールド工程により加熱成型するが、上記の方法を採用することにより柄11が消えにくくなる。図2に示すように、成型後の織編物のエンボス部分12に対する地の部分13の凹凸差aは、40 μ m以上であることが好ましく、さらに好ましくは、70～150 μ mである。この凹凸差aが、40 μ m未満の場合は、柄の認識が難しい場合がある。図3に示すように、生地の表面がフラットでない場合は、生地表面の山14と谷15の中間部16と、エンボス部分12との差を凹凸差aとする。

【0009】図4に示すように、ブラジャー20は、カップ部21、下部中央部22、脇部23および肩紐24から構成されているが、カップ部21には、エンボス加工による柄11が付与されている織編物10が使用されている。

【0010】従って、ブラジャーのカップ部21に柄11が付いているにもかかわらず、白や薄色のTシャツを着用したり、あるいは、薄い生地を用いたブラウスを着用しても、ブラジャーのカップ部21に施した柄11が透けて見えない。その理由は、よく分かっていないが、多分、地の部分13とエンボス部分12の材質が同じであるためではないかと思われる。そのうえ、柄糸を使用していないため、柄糸のほつれがない、レースに比べて強度が高い、レースや刺繍を施していいたため、安価な製品ができるなど、多くの利点が得られる。

【0011】

【実施例】以下、実施例を挙げて、本発明をさらに具体

的に説明する。

実施例1

本発明のブラジャーカップと従来のレース使いのブラジャーカップとのスケ感のテストを行った。得られた結果を「表1」に示す。

(a) ブラジャーカップ部に施した柄のスケ感評価方法

柄のスケ感評価方法は、図5に示すように、本発明のブラジャーカップを使用したブラジャー20と、従来のレース使いのブラジャーカップを用いたブラジャー20'の上に下記のテストピースAを軽く乗せて黙視にて判定した。そして、柄が透けて見える場合は×とし、柄が透けて見えない場合は○とした。

(b) 試験室内の明るさ

ブラジャーを乗せるテーブル面の明るさを1,000ルクスに設定した。

(c) テストピース

* 【表1】

	-----	----	----	----	----	----	----
	テストピース	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6
	-----	----	----	----	----	----	----
	従来例	×	○	×	×	×	○
	-----	----	----	----	----	----	----
	本発明	○	○	○	○	○	○
	-----	----	----	----	----	----	----

【0013】表1から明らかなように、本発明は、天竺編みの白色のTシャツや、白色のブラウスを着用しても、ブラジャーのカップ部に施した柄が透けて見えないことが分かる。

【0014】

【発明の効果】本発明のブラジャーカップ用織編物は、熱可塑性合成繊維からなる織編物にエンボス加工による柄を付与したから、この織編物を用いてブラジャーカップを形成した場合に、ブラジャーのカップ部に柄が付いているにもかかわらず、白や薄色のTシャツなどの衣服を着用したり、あるいは、薄い生地を用いたブラウスなどの衣服を着用しても、ブラジャーのカップ部に施した柄が透けて見えない。そのうえ、柄糸を使用していないため、柄糸のほつれがない、レースに比べて強度が高い、レースや刺繍を施していたため、安価な製品ができるなど、多くの利点が得られる。他方、本発明のブラジャーカップは、エンボス加工による柄が付与されている熱可塑性合成繊維製の織編物を用いて形成されているから、ブラジャーのカップ部に柄が付いているにもかかわらず、白や薄色のTシャツなどの衣服を着用したり、あるいは、薄い生地を用いたブラウスなどの衣服を着用

* テストピースは、次のとおり用意した。

No. 1：30番手の綿糸を100%使用した天竺編みのTシャツから採取した布片（白色）

No. 2：30番手の綿糸を100%使用した天竺編みのTシャツから採取した布片（黒色）

No. 3：30番手の混紡糸（綿30%、ポリエステル70%）の使用した天竺編みのTシャツから採取した布片（白色）

No. 4：75D/36filのポリエステル長繊維糸条を100%使用したブラウス生地（白色）

No. 5：75D/36filのポリエステル長繊維糸条を100%使用したブラウス生地（緑色）

No. 6：75D/36filのポリエステル長繊維糸条を100%使用したブラウス生地（黒色）

【0012】

しても、ブラジャーのカップ部に施した柄が透けて見えない。そのうえ、柄糸を使用していないため、柄糸のほつれがない、レースに比べて強度が高い、レースや刺繍を施していたため、安価な製品ができるなど、多くの利点が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るブラジャーカップ用織編物の平面図である。

【図2】生地表面がフラットな場合の凹凸差aの測定方法を示す説明図である。

【図3】生地表面がフラットでない場合の凹凸差aの測定方法を示す説明図である。

【図4】本発明に係る織編物をブラジャーカップ部に用いたブラジャーの正面図である。

【図5】ブラジャーカップ部に施した柄のスケ感評価方法を示す説明図である。

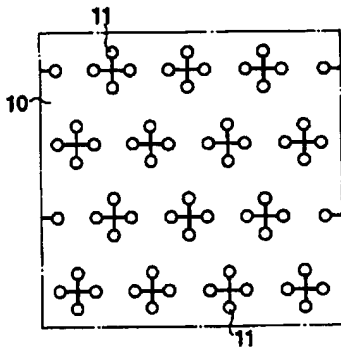
【符号の説明】

10 熱可塑性合成繊維製の織編物

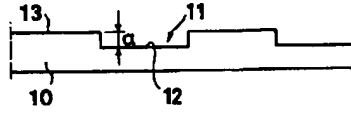
11 エンボス加工による柄

21 ブラジャーカップ

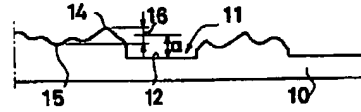
【図1】



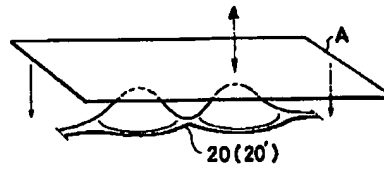
【図2】



【図3】



【図5】



【図4】

